

# 同窓会だより

●発行  
**千葉県立船橋高等学校同窓会**  
 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1  
 ホームページ <http://homepage2.nifty.com/funabog/>  
 E-mail funafuna55@nifty.com

●印刷 (株)サラト  
 姫路市北条宮の町172番地  
 TEL079-284-1380

題字／小原天簫先生



## 母校はいま

憧れていた「母校の教壇に立つ」を実現し三年目を迎えています。初年度の三月には東日本大震災がおこり、その爪痕は忘却への警笛のように残されたままです。昨年度は創立九十周年の記念式典を習志野文化ホールで挙行し、今年二月に亡くなられた千石正一先生をお迎えして『話め込みと廿世紀』と題しての記念講演を行いました。ホールに響くその声は精気に満ち、拝聴する者を魅了したご講演は、私たち後輩に託された一筋の道標なのかもしれないと今あらためて考えています。

二期制単位制となった船高は、半期での単位取得ということを想定し昨年度から定期考査が各期二回ずつとなりました。たちはな祭といえは六月の第三週の週末開催だったものが、カレンダーの加減や諸般の事情により第四週となるなど「母校のいま」は、同窓職員にとっても、その枚挙に暇のないほどの変化に遅れじと、ひたすらついて行くような、有様です。さらに、今年度からは授業時間確保のために土曜日公開授業が一、二年を対象に毎月一回ほどの頻度で行われ、多い時には一八〇人弱の来校者を迎えるなど、これも首相を輩出したことの婉曲的な効果なのかもしれません。

さて、母校に立つ教員も十四名となり、私たちの果たすべき役割とは

何だろうと自問自答しています。人生の長い時間のたった三年分ではありませんが、たちはな校章を見れば親近感がわき、船高出身と聞けばそれだけで十年来の知古のような気がするものです。それが脈々と流れる伝統であり、繋がりへの想いです。だからこそ、生徒たちには「今を精一杯生きる」ことを教え共に歩むのはもちろんのこと、いろいろな場面で、人は多くの人の関わりの中で生きていくのだから、互いに大きな関心を持ち、考え発信し、次世代を担う船高生たれと願うのです。

私は船高が大好きでした。土曜日の昼下がりに、教室の窓辺で友と語った時間が大切な宝物でした。中学校までには経験できなかった同じような志を持つ者への共感が高校生活を彩り、何ものにも代え難い時間となったのです。それは今の生徒たちを見ていると感じます。違いがあるとしても凹凸が少ないことでしょうか。もう少し飛び出てもいい、もう少し主張してもいい。それを受け入れる度量を私たちは持ち、支えていく覚悟を持って、それが同窓職員に課せられた使命だよと、再び千石先生の声を聞いた気がします。

千葉県立船橋高等学校教諭

吉野 (岡野) 深雪

(平成22年4月着任、昭和52年3月卒)

### 会長挨拶



同窓会会長  
金子安雄  
(昭和34年卒)

春の同窓会で野田総理の挨拶を聞きス  
タートした一年、今年は夏の高校野球で母  
校が「東船橋ダービー」を制し、また、高  
校生クイズ大会で堂々決勝戦進出を果たす  
等、母校の活躍が報道されることも多く、  
学業に部活動にと母校の名が全国に轟く年  
となりました。同窓生の皆さんも在校生や  
同窓生の奮闘に一喜一憂、胸躍る思いに改  
めて母校への気持ちを強くされたことと思  
います。

こうした船高の活躍に目を見張る年でし  
たが、秋になって、母校に「創立100周  
年記念事業校内準備委員会」が組織されま  
した。これは県内高校の雄として取り組む  
べき課題を大きく捉え、2020年に向け  
いよいよ新たな10年が具体化したもので、  
この大きな節目の年は同窓会活動におい  
ても大きな目標となっております。

ややもすれば混迷を深め不透明な社会情  
勢下にある今日であればこそ、大計のもと  
若き在校生の限りなき可能性、やがて日本  
を担うであろうその未来を信じて、母校の  
充実と発展に夢を託す活動が求められるも  
のと確信しております。

この「委員会」の活動状況等皆さんにお  
知らせし、母校と歩調を合わせた事業展開  
を行ってまいることとなりますので、引き  
続き同窓生各位のご理解とご支援をお願い  
申し上げる次第です。

### 校長挨拶



校長  
森村隆二

同窓の皆様には、日ごろより本校の教育  
に対し格別のご理解とご支援を賜り深く感  
謝申し上げます。

創立90周年に際しまして、多くの方々か  
らお寄せいただいた募金のお蔭で、オー  
トラリアへの短期留学基金や施設設備の充  
実を図ることができました。この場をお借  
りして感謝申し上げます。

さて、9月3日に創立100周年に向け、  
山田教諭を事務局長として校内組織「創立  
100周年記念事業校内準備委員会」を立  
ち上げました。本年度の主な活動として、  
県内の新校舎の視察を予定しております。

本校では、今年度から大きな変革とし  
て、1・2年次生の授業時間数を2時間増  
やし週32時間から34時間とし、千葉県内の  
県立高校では、初めての「土曜授業」を実  
施しております。生徒の知的好奇心を高  
め、一人ひとりが進路希望を達成し、自己  
実現ができる魅力ある進学校として、新た  
な教育活動を展開してまいります。

8月15日に船橋市内の県立高校で初め  
て、船橋市長と「災害発生時における避難  
所等の施設利用に関する協定書」に調印し、  
船橋市から「避難所」に指定されました。  
また、本校独自の体制として、非常用食糧・  
飲料水を3日分生徒全員分の備蓄もできま  
した。今後も、生徒が安全で快適な学校生  
活を過ごすことができるように努力いたし

ます。  
「船高」が意欲的に教育活動に邁進でき  
ますよう、今後とも同窓の皆様様の暖かいご  
支援とご協力をお願い申し上げます。

### 着任の御挨拶



教頭  
三木信夫

本年四月二日、県内屈指の伝統校であ  
る県立船橋高等学校へ赴任いたしました。  
五年間学校を離れた職にあり、高校の職場  
に久しぶりに戻り、あらためて若い力あふ  
れる学校の素晴らしさを実感しています。  
着任して間もない頃、お二人の御婦人  
が学校玄関前で、「近くに用事があったてふ  
と母校が懐かしくなり、立ち寄りました。  
校庭から聞こえる高校生の声を聞いたら  
つい学校の様子をもっと知りたくて。御迷  
惑にならないように校舎の外や校庭を歩  
いてもよろしいでしょうか」とのこととし  
ました。しばらくして、「自分たちがいた頃と  
全く変わってないところや新しくなった  
ところや懐かしさと驚きの学校巡りとし  
た」と笑顔で語り、満足そうにお帰りにな  
りました。

同窓会の会員の皆様にお会いすると母  
校を大切に思う気持ちから、本校へ多くの  
言葉をいただきます。先輩や地域の皆から  
愛され、中学生に範を示せるような若者と  
して成長してほしいと願っております。  
この校風と脈々と流れる伝統を尊重し

つつ、来るべき百周年に向けてますますの発  
展を目指していく本校に、教頭として微力  
ながら尽力していくつもりです。同窓会の  
皆様には、これからも御支援をよろしくお  
願いたします。

### 着任の御挨拶



事務主幹  
福間正敏

今年度4月から赴任いたしました。よろ  
しくお願申し上げます。

着任早々驚きました。空調設備が普通教  
室のみならず特別教室まで完備されてい  
ること。放課になると、グラウンド・体育館・  
中庭・特別教室棟や部室でのそれぞれ大勢  
の生徒の部活動、また、図書館・各教室で  
の自己学習の風景が目飛び込んできまし  
た。さすが伝統の船橋高校と妙に新鮮な緊  
張感を感じたことが思い返されます。

御承知のとおり、県の財政は東日本大震  
災の対応等で学校への配分等について大変  
厳しい状況にあります。その中で、同窓会  
様やPTA様からの生徒への教育活動への  
絶大な御支援と御協力をいただき、事務長  
としてここに感謝を申し上げます。

船橋高校の組織の一員として、微力では  
ありますが、全日制・定時制の職員とも  
に、危機管理の観点を念頭に生徒の安全と  
教育環境条件の整備に少しでも尽力できれ  
ばと思っております。今後ともよろしく御  
支援と御協力をお願いいたします。

平成二十五年

# 「春の同窓会」

## ご案内

実行委員長

今村麻美(昭和46年卒)

平成25年春の同窓会の実行委員長を務めます昭和46年卒業の今村です。

県立船橋高校も創立90周年を過ぎ、歴史ある高校となりました。また、最近では生物オリンピック、高校生クイズでの大活躍で、船橋高校も全国区の高校となりつつあります。個性的で、精神的にた

### 船高の歴史(一八)

## 定時制課程の草創から成立期

小川信雄

(東邦大学薬学部非常勤講師、一九六三年卒)

県立船橋高等学校の定時制課程は勤労青年の修学のために一九四三(昭和一八)年四月に船橋市立中学校第二部(夜間)として創設された。募集定員は五〇名、入学資格は高等学校卒業以上で、三年で修了するとしていた。翌年四月には船橋市立から千葉県立へ移管されたが、当時の具体的な状況を明らかにする資料はほとんど無い。したがって、現在となっている学籍簿や記録された旧職員の聞き書きから、草創期の事情を考察するほかにない。

第一回入学生は学籍簿によれば四三年五月一日となつていて、編入学を含めて実際の人数は五一名となり、担任は稲田正通先生で、教科科目は国民科(修身・国語・歴史・地理)、理科(数学・物理・生物)、体練科(教練・体操・武道)、芸術科(書道・図画)、外国語科(英語)であり、評価は優・良・可・不可となつていた。この第一回生は一九四六(昭和二一)年三月二八日に男子二名が卒業した。戦時下の徴兵や職業青年である生徒の事情から転退学者が多かった。徴兵による入隊を退学理由とする者は一八名になつて(後に復学した者はわずかに二名である)。

くましい生徒が増えてきたことを誇らしく思つていらつしやる方も多いのではないでしょうか。春の同窓会も年々参加者が増え、昨年は野田総理大臣にもご出席いただき、盛大な会となりました。来春2月11日(祝・月)に西船橋フロアで開催される春の同窓会にお集まりいただき、高校時代に思いをはせ、昔話に花を咲かせてみてはいかがでしょうか。今年還暦を迎える私達46年卒業生が幹事として準備を進めております。60歳はこれまでの人生を振り返り、これからの人生を考える区切りの年です。これからの人生を少しでも豊かな、素敵な人生にするためのお手伝いができれば、と思います。また、若い方々の参加もお待ちしております。様々な年代の先輩や同世代の仲間と親交を深める貴重な機会となるのではないのでしょうか。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

情を理由とした退学は二名にのぼつていて、そして編転入学者は一九名であった。この数字は戦時・戦後直後の生活の困難、また混乱の影響であろう。第二回入学生は四八年三月に男子一〇名が卒業している。敗戦後の四六年四月になると第二部は三年制から四年制となり、全学の定員は二〇〇名で、一学年は五〇名となり、新入生募集定員も五〇名となった。さらに新制高等学校の発足にともない、四八(昭和二三)年四月、県立船橋高等学校夜間課程に、五〇(昭和二五)年四月に定時制課程へと編制され、現在にいたる。当時、教育をめぐる諸制度、施設などはまったく不十分であり、それらの課題の解決策の導入は一九五〇年代後半(昭和三〇年代はじめ)までかかったといつてよい。つまり一九五八(昭和二三)年一月に雇用主や父母、学校関係者などによって、高等学校定時制・通信制課程に通学し、勤労する生徒を支援する団体である船橋市定時制通信制教育振興会が組織されること、が、目玉になるだろう。

四九(昭和二四)年三月に新制高等学校夜間課程第一回の卒業生は男子二名であった(なお、五年制の旧制中学校から三年制の新制中学校・三年制の新制高等学校へ制度変更されたが、新制高等学校の卒業資格を得るには全日制の場合には一年間の学習が不足する。つまり、四八年三月旧制中学校第一回卒業生のうち新制高校へいく者はあと一年で新制高校卒業の資格を得るとした。また四九年三月第二回卒業生も新制高校へいく者は新制高校第三学年に相当するとして。そしてこれら以下の学年で新制高校卒業を希望する者には併設中学校を設置して、その学習を保障している)。五〇(昭和二五)年三月の卒業生は男子二六名、翌五年三月には一一名である。五二年三月の卒業生は男子一九名、女子一名で、この女子は第二部・夜間課程・定時制課程をつうじて最初の女子卒業生であった。五三年三月には男子四一名が卒業するものの女子はいなかった。五四年三月の卒業生五二名中に女子は八名で、その後、女子の卒業生は順調に増加して、一九五〇年代後半以降は男子とほぼ均衡し、六〇年代後半には男子数を上回ることも多くなった。

一九五一(昭和二六)年度の『学校要覧』によると、生徒在籍数は一年九六名(内女子は一四名)、二年三九名、三年一九名、四年一名(二年以上は女子在籍数の記載はない)の合計一六五名である。定時制専任教職員は九名、講師一名、兼務講師九名、事務職三名である。教育設備は照明設備、暖房設備ともあるとしているが、現在の基準からいえば充分とはいえないだろう(特に校庭の照明が完備したのは一九七〇年である)。給食は軽食夜食としてパンと牛乳であった。当時の学費は入学当初の必要額は約八〇〇円、毎月の授業料が三〇〇円、教科書代は約二五〇円となつていて、当時の定時制生活の事情や雰囲気を知る資料に、定時制文芸部が一九五八(昭和二三)年三月発行の『篝火』創刊号があるが、これは定時制課程の職員室にも保存されてはいないと思われる。最後に旧職員稲田正通先生の「聞き書き」を資料として掲載する。

「私は(注 昭和一八年四月)京都府立盲学校から市立船橋中学校に転任してきました。勤労青年のために夜間中学校が千葉県で初めて誕生したわけで、経験もない私でしたが何とかやって見ようと思つて来ました。入学試験はもうすんでいて生徒は入学式を待つばかりの時、私が主任、昼間の瀬山先生が副主任でした。授業は昼間の先生が皆で担当しました。生徒は百名近く(注 記録では八〇名)受験し約半分五〇名が合格し船橋市出身の生徒が多く習志野や千葉からの生徒も少しおりました。生徒の授業態度が大変よくて先生方から夜間の生徒はまじめだと常に好評を得ていました。教練もあり四〇分授業四時限で一時限後に夜食をとりました。海神に給食センターのようなものがあつて給仕さんが夕方とつて来てくれました。が弁当持参のものもありました。服装などもすべて昼間生徒と同じ規定でしたが、昼間生徒と出会った時、どちらが先に敬礼するか職員会議で大半もめました。年齢は高等科二年卒でいてから昼間の三年生と同等であるが、学校は学年で上下をつけるべきだという論が勝つて昼間の一年生と夜間の一年生と同等だが夜間の方が古参だから同学年の生徒は昼間生徒が先に敬礼することに決まりました。(中略)翌年は相当の志願者を期待して小學校を勧誘してしまいましたが、二〇名ぐらいいし来てくれんががっかりしました。昼間とちがつて上級生だからといっていはるということはありませんでした。また昼間の生徒が工場へ動員されるのに夜間の方は安んじて勉強ができたので昼間生徒の一部から羨ましがられた。

船橋市の教育課長芦田耕平先生が生徒の家庭を訪問して父親の意見をきいてみることも大切ですよと言われたことがありました。学校で父兄会を開催することもありませんでしたが、私は一学期のうちに生徒の家庭を全部訪問してみました。多くは自転車を持って行きました。農家へ行って留守なので近所まで歩いて畑で仕事をしている所を訪ねたこともありました。また生徒の勤め先を訪ねて係の人と懇談し試験の時は考慮して下さいと頼んだこともありました。よく考えるととてもできないことですが生徒の実態は今よくつかめました。父兄は皆夜間中学校の新しい制度を喜んでいました。第一回の生徒が入学して間もなく五月のある日曜日に市川の里見公園へ遠足をすることがあります。ほとんど全員が参加しましたが電車へ乗らずに歩いて行つて来ました。軍隊へ入つて足が丈夫でないといふのでその頃は歩かせることが大切でした。制服制帽にゲートルをまき靴をはいて一列になつて瀬山先生と私とで引率し国府台まで行き、そこで自由に遊び弁当を食べてから帰つて来ました。これも今できそうにないことです。

第二回の生徒に築園台の軍隊から村山君という伍長の兵隊さんがいました。二五歳ぐらいたつたと思えます。大変まじめな人で少し遅くなると当時としては珍しい軍の自動車もかけつきました。軍人だけに遅刻はしませんでした。軍人だけでなくその時分の生徒に遅刻はほとんどありませんでした。月見の夜に村山君が皆に軍隊の話をかかせ先生も生徒も楽しくききました。が過去の夢のようです。」

参考文献『千葉県立船橋高等学校五〇年誌』(一九七一年)「定時制課程」は新任教員の私が執筆したが、それを修正して利用した。



## 明日のことなど、考えない

前川 健一 氏

(昭和46年卒)



1952年東京都生まれ。73年のアジア旅行をきっかけに世界を巡る。

76年から2年間、中国料理店で料理を修業。東南アジアの食文化を究めた「東南アジアの日常茶飯」が話題に。90年代に入ってバンコク定点観察者として「バンコクの好奇心」「バンコクの匂い」「まとわりつくタイの音楽」を著す。「アフリカの満月」でJTB紀行文学大賞・奨励賞を受賞。

東南アジアが好きで、タイにいらっしやる予定のある方は、是非前川氏の著書をご覧になってください。ガイドブックに載っていないアジアを発見できることと思います。

中学・高校時代に、「将来」を具体的に考えていたわけではないが、なんとなく方向は見えていたように思う。整理して要約すれば、「したくないことは、しない。したいことだけをして、生きていく」ということになるだろう。

「したくないこと」、あるいは「嫌いなこと」とは、組織、規則、背広、管理、満員電車、お付き合いなどといったもので、自分がどこで何をするのか、組織に決めてもらうような生き方はしたくなかった。「したいこと」とは、自由に旅をして、好きな本を好きなだけ読んで、好きな映画を好きなだけ見て、好きな音楽を好きなだけ聴いていたい。そういう人生だ。

高校の卒業式の翌日、私は建設現場にいた。旅行資金を稼ぐ

ためだ。ある程度カネがたまるまで、日本国内を旅行し、神田神保町の古本屋街を散歩して、名画座の人となった。そういう生活の延長で、21歳のときに初めて外国に行き、以後、今日までそういう生活が続いている。

建設現場の仕事は、それなりに楽しいものだったが、できることなら旅をしつつ資金も作ればいいという虫のいいことを考えていたら、知人の知人や友人の知人などのコネで、旅行の原稿を書く仕事を依頼されて、それ以後なし崩しでライターとなった。今日までライター稼業を続けてこられたのは、幸運だったからであり、私に才能があったからでもある。「才能」というのは、文章力ではない。プロよりうまい文章が書ける素人などいくらでもいる。私が言う「才能」

とは、将来のことなど考えない能天気頭脳のことだ。

将来の設計をしないというのは、欠陥といえれば欠陥かもしれないが、才能だともいえる。「まあ、なるようになるさ。ならなければ、それはそのときのことだよな」と、口には出さないが、そういう気分が私のような若者は世界を旅してきた。嫌なことはいらないから、貧乏ではあるが、将来がはつきりと見えていたら、そのほうが不安で、不満だっただろう。

月日は矢のごとく速く飛び、初めて外国に行つてから、そろそろ40年がたつ。だから、最近、「いまでは信じられないことだが……」という書き出しで原稿を書くことが多くなった。

1970年代は、外国旅行をする若者はまだ、ごくわずしかいかなかった。それでも、シベリア鉄道を利用してヨーロッパに行き、そこで旅費を稼いで旅を続けるという若者はいたが、アジアにはインドとネパールを除けば、ほとんどいなかった。当時のイメージでは、東南アジアというのは、男の団体が女を買いに行く場所であり、ワニ革のハンドバッグとダンヒルのライターを買いに行く場所だった。東南アジアは、日本の若者の視界に入っていなかった。嫌悪されていたといつてもいい。

当時、バンコクに日本人がよく利用する安宿が数軒あったが、日本人宿泊者数は平均すれば合計10人くらいだっただろうか。つまり、団体旅行をしていない若い日本人旅行者は、1日あたりわずか10人くらいしかいなかったというのだ。そのほとんどは、インド帰りだった。

1974年に、私は初めてインドネシアのバリ島に行った。あの当時、電気のある地区はごくわずかだった。ホテルもほとんどなく、私のような旅行者は、ランプで暮らす民家に居候させてもらった。島にひと月居て、日本人にはまったく会わなかった。ただの、ものぐさ旅行者にすぎない私に原稿の依頼があつ

た理由は、その当時、私のように東南アジアを旅する者がほとんどいなかったからだ。

自由気ままに旅する貧乏旅行者向けのガイドブックが、ある程度の地域をカバーして何冊も書店に並ぶようになるのは、80年代後半になってからだ。英語のガイドブックでも、それよりちよつと早いすぎない。だから、70年代の旅行者は、ガイドブックなしで旅をしていた。旅行情報の多くは、現地調達だった。どこかで、たまたま旅行者に出会えば、そこで旅行情報の交換をする。日本人旅行者などわずかしからないから、基本的には英語で情報を集める。そういう旅をしているうちに、旅行者は鍛えられ、英語くらいならなんとかしゃべれるようになる。

ガイドブックのない旅に、計画や予定もない。見通しも展望もないが、「この先、まあ、なんとかなるさ」と思って、毎日を楽しく過ごしていた。明日、自分がどこにいるのかもわからないのは、不安ではなく楽しみだ。昔も、今も、誰にも明日は見えないのだから、今日が楽しいほうがいい。

というわけで、この原稿を書き終えたら、再び熱帯の旅行者に戻る。

# 恩師探訪

## 根岸茂行先生

伺いました。



根岸茂行先生。昭和36年〜43年は美術担当、昭和53年〜平成3年は工芸担当として船高に勤務されました。平成3年を最後に教職をリタイアされましたが、現在も年1回のペースで個展を開催し、月2回ほど朝日カルチャーセンターで人物画のご指導をするなど精力的に活動されています。今年も11月初日から千葉きぼーる2階の画廊ジュライで恒例の個展を開かれていますと伺い、今回の恩師探訪は、個展を拝見しながら先生や奥様とお話をさせていただき、それをまとめるという形で行いました。また、先生が昭和42年3月に卒業させた旧3年D組の方々にもご来場いただき、当時のお話を

お生まれは浜松ですが、すぐに千葉に越され以来ずっと当地にお住まいです。父上が職業軍人で、終戦後、まだ先生が若い頃に亡くなられて、母上と4人のご兄弟での生活でした。軍の施設を小学校の校舎として使っていた頃、その一室に家族で暮らし、当直の小学校の先生方や別の部屋に住んでいた千葉大の先生と話をしながら絵を描くことが楽しい時間だったそうです。小さい頃から、出せば必ず賞をもらうというほど絵が上手で、その千葉大の先生にいただいた「末は芸大に」の一言が出発点で遂に初志を貫徹しました。

今風景画が中心ですが、若い頃は抽象画をたくさん描かれていました。美術部に在籍する生徒たちは芸大志望の方も多く、予備校的になったことは少し残念な様子でした。途中10年間八千代高校に勤務されて再び船高に戻られる時には、工芸科を作って欲しいとご自分から



消火！と、別のキャンバス生地を炎の上からかけることを思いつき、鎮火させたのですが、火事になってたら大変だったなあと笑っておられました。また、定時制の給食の方には大変お世話になり、食べ残しの食パンをたくさんいただき、その白い部分をまるめてクロッキーを消していました。また、若き芸術家気分の同僚たちが集まり、モデルをよんで絵を描いたり、先生はモデルの手配をしたりと、大らかな時代だったのかなと当時を懐かしむ表情でした。

「お世話になった校長先生や多くの仲間にも恵まれて、精神的には絵描きだった自分ではあるが、幸せな教員人生だった。」と先生はおっしゃっていました。教

発案されて来られたそうです。もともと手先が器用な先生は、工芸の授業の一環としてご自分でカメラを何台も作られ活用されていました。長くても3年しか勉強しない高校では美術で特別にその成果が表れることは少ないが、工芸は形として成長の過程が見られてかえって楽しいくらいだと漏らしていたと伺いました。現在、建築家として活躍されている三浦慎さんに出会った時、「自分を超越する存在」になるだろうと直感し、それが教師の醍醐味といわんばかりに、知識や経験をつぎ込みました。ある日、三浦さんが建物のデザイン的背景に空や雲を散らして持つてきました。すぐさま、先生は刷毛を手にして、建物のライン際に青を太く入れ、こうして立体感を見せるのだとおっしゃったそうです。芸大受験の日、それを実行した三浦さんは見事に合格し、その話をされる時の先生は一瞬教師の顔に戻りとても楽しそうでした。



え子のみなさんが口を揃えて、「さらりとすべてをこなし、大らかで、生徒たちの尊厳を重んじ接してくれる、船高にあつて異色ともいふべき存在だった。」と評されるのを伺い、やはり先生の清涼感ある人間性のたまものであるかと思えました。

毎年、11月頃には、画廊ジュライで個展をされるそうです。82歳になったとは思えないタツチの作品が飾られています。千葉にお越しの折にはどうぞ足をお運びください。

(取材・堀 浩・吉野深雪)

◆◆◆ 創立90周年記念事業収支決算 ◆◆◆

1 寄付金等総額	11,356,022円
2 支出	
創立90周年記念事業実行委員会(母校)	6,000,000円
車両購入費用積立金	2,500,000円
東日本大震災寄付	300,000円
礼状等事務諸経費	2,556,022円

本年度の総会は8月5日母校にて行われました。平成23年度の事業報告と収支決算報告、平成24年度の事業計画と収支予算が議題とされ、別表のとおり承認されました。

同窓会の事業規模は概ね前年と同様なものとなっておりますが、同窓会運営費の伸びが予算を下回ったこと、同窓会だよりの送付を絞ったことにより、予備費(繰越)が減少し、結果として予算規模は13%強下回るものとなりました。今後、創立90周年記念事業から同窓会だより発送経費分を繰り入れますので予算規模としては前年度並みとなりますが、同窓会運営費の増が課題となっております。本号より同窓会運営費を納めていた

創立90周年記念事業実行委員会費用内訳

収入の部			
寄付金	6,000,000	同窓会募金事業から	
積立金	800,000	全日制・定時制PTA積立	
計	6,800,000		
支出の部			
校歌碑建立	999,430	制作及び著作権料	
式典	1,074,498	記念式典及び記念講演会	
記念誌作成	704,445	記念誌作成及び送料	
学校教育振興			
施設整備	1,036,665	防犯カメラ設置費及び体育館スクリーン	
国際交流基金	1,837,260	基金積立	
部活動振興	1,147,702	楽器及びトレーニング機器購入	
計	6,800,000		

だいた方の芳名録を同封しておりますので、学年単位での掘り起こし等でも活用いただき、一層のご協力を願います。

また、90周年記念事業関連事業費の決算についても別表の通り報告させていただきました。母校の記念事業実行委員会の収支報告も併せて掲載いたします。この報告をもって90周年関連事業の最終報告とさせていただきますが、車両購入費は積立となっております。購入後には改めてご報告いたします。なお、今年度卒業生で船高に赴任された先生(校内事務局)は、3名増えて14名となりました。

事業報告・事業計画・総会報告等

◆ 平成23年度決算及び平成24年度予算 ◆

1. 収入の部

科目	24年度予算	23年度予算	23年度決算	22年度決算
繰越金	5,912,646	7,733,686	7,733,686	7,746,867
一般会計	5,912,646	6,134,766	6,134,766	7,746,867
名簿販売	-	1,598,920	1,598,920	-
会費	6,216,000	6,240,000	5,852,720	5,042,060
入会金	1,116,000	1,140,000	1,098,000	1,074,000
春の同窓会	2,600,000	2,600,000	2,730,000	2,290,000
同窓会運営費	2,500,000	2,500,000	2,024,720	1,678,060
雑収入	5,000	5,000	1,298	2,586
利息	5,000	5,000	1,298	2,586
合計	12,133,646	13,978,686	13,587,704	12,791,513

2. 支出の部

科目	24年度予算	23年度予算	23年度決算	22年度決算
会議費	280,000	280,000	236,090	273,700
総会	80,000	80,000	4,000	64,600
理事会	200,000	200,000	232,090	209,100
必要費	390,000	390,000	204,205	264,263
通信手数料	150,000	150,000	124,245	139,415
印刷費	100,000	100,000	50,000	56,500
消耗品費	20,000	20,000	13,490	34,378
謝金等諸費	70,000	70,000	0	32,500
運営雑費	50,000	50,000	16,470	1,470
後援費	1,050,000	1,050,000	830,793	772,523
母校応援費	800,000	800,000	740,800	638,000
特別奨励金	100,000	100,000	0	30,000
卒業記念品	100,000	100,000	89,993	89,523
クラス会補助	50,000	50,000	0	15,000
競別及び慶弔費	80,000	80,000	28,659	30,000
競別金等	30,000	30,000	23,659	30,000
慶弔費	50,000	50,000	5,000	0
春の同窓会費	2,350,000	2,350,000	2,100,000	2,000,000
飲食会場費	2,000,000	2,000,000	1,750,000	1,650,000
幹事学年誌費	300,000	300,000	300,000	300,000
運営雑費	50,000	50,000	50,000	50,000
会報及び広報費	2,850,000	2,520,000	2,676,391	3,316,261
会報発行費	2,700,000	2,400,000	2,556,391	3,207,986
HP運営費	150,000	120,000	120,000	108,275
名簿管理費	-	30,000	0	0
通信費	-	0	0	0
名簿管理費	-	30,000	0	0
特別会計へ	-	0	1,598,920	0
予備費	5,133,646	7,278,686	-	-
繰越額	-	-	5,912,646	6,134,766
合計	12,133,646	13,978,686	13,587,704	12,791,513

祝 高校生クイズ 準優勝!!

八月。僕は高校生クイズ全国大会に千葉県代表として出場するため、ホテル「機山館」に集合しました。船高に入学したのもこの舞台に立つがため。思えば、全然勝てずに悔しい思いをし、この一年間は部内杯を開くなどしてひたすら知識を磨き続けました。やっと高校生や大学生、社会人主催の大会で活躍できるようになり、他校の人たちとも交流を持てるようになったのです。迎えた全国大会。テレビ的には「東大生正解率〇%」とか「どこかの模試??」というようなイメージかもしれませんが、参加者にとっては「祭り」であり「スポーツ」。ホテ

ルでは、なかなか会うチャンスがない全国の高校生といるいろな話で盛り上がり、朝まで一緒にクイズをしたり。本当に楽しい一時でした。でも、ひとたび舞台に立てば顔つきも変わり、特に一回戦は放映されたものよりも実際はずっと激戦で、時間が経った今は、よく準優勝できたものだと、仲間や応援してくださった方々に心から感謝しています。現在受験に遅ればせながら参戦し音を上げそうにもなりますが、大学でもクイズを続けたいので頑張っています。これからは船高クイズをよろしくお願います。

(松田健見 記)



母校の現況

【全自治】

運動系部活動の番号区分

- ① 23年度新人大会
- ② 24年度関東大会予選
- ③ 24年度関東大会予選
- ④ その他

○運動系部活動

野球

- ① 秋季県大会 一回戦
- ② 春季県大会 一回戦
- ③ 選手権大会県大会 ベスト32
- ④ 陸上競技

水泳

- ① 競泳 男子50m・100m背泳ぎ 優勝 石川和樹
- 女子800m自由形 5位 佐々木里帆
- 水球 予選トーナメント敗退
- ③ 競泳 男子100m背泳ぎ 7位 石川和樹
- 女子800m自由形 4位 佐々木里帆

水泳

水球

- ④ 水球 4位
- ④ 水球 県高校選手権 4位

サッカー

- ① 県大会3回戦 (ベスト32)
- ② 県大会1回戦 (ベスト32)
- ④ 高校選手権千葉県大会 決勝トーナメント一回戦

柔道

- ③ 女子団体 ベスト16
- ④ 女子52kg級 中山まりな ベスト8

剣道

- ① 男子団体 県大会一回戦
- 女子団体 県大会一回戦
- ② 男子団体 県大会一回戦
- 女子団体 県大会一回戦
- ③ 男子個人 後地祐里 県大会出場
- 女子個人 県大会一回戦
- ④ 春季船橋市民大会 高校女子の部 優勝 伊藤葉月
- 高校男子1年生の部 優勝 大島悠太郎

バスケットボール男子

- ① 地区予選代表決定戦敗退

バスケットボール女子

- ② ③ 県大会1回戦
- ① 県大会2回戦
- ② 地区大会3位
- ③ 地区大会2回戦
- バレーボール女子
- ① ② 地区大会出場
- ③ 県大会 回戦

テニス

- ① 女子団体 県大会2回戦
- 女子S 船見まどか 県大会一回戦
- 女子D 船谷・船見 県大会一回戦
- ② 女子団体 県大会一回戦
- 女子団体 県大会2回戦
- 男子S 長島晃太 県大会一回戦
- 男子D 菊谷・船見 県大会一回戦
- ④ 公立学校テニス大会 女子団体 ベスト8
- ソフトテニス
- ① 男子団体 県大会2回戦
- 男子個人 県大会3回戦
- ② 男子個人 海老原・鈴木 県大会3回戦
- 金澤・白井 県大会4回戦
- ③ 男子個人 県大会2回戦
- 男子団体 県大会2回戦
- ④ カワサキ杯争奪全国高校選抜研修大会 ベスト16

- ② ③ 県大会1回戦
- バスケットボール女子
- ① 地区予選敗退
- ② ③ 県大会1回戦
- バレーボール男子
- ① 県大会2回戦
- ② 地区大会3位
- ③ 地区大会2回戦
- バレーボール女子
- ① ② 地区大会出場
- ③ 県大会 回戦

テニス

- ① 女子団体 県大会2回戦
- 女子S 船見まどか 県大会一回戦
- 女子D 船谷・船見 県大会一回戦
- ② 女子団体 県大会一回戦
- 女子団体 県大会2回戦
- 男子S 長島晃太 県大会一回戦
- 男子D 菊谷・船見 県大会一回戦
- ④ 公立学校テニス大会 女子団体 ベスト8
- ソフトテニス
- ① 男子団体 県大会2回戦
- 男子個人 県大会3回戦
- ② 男子個人 海老原・鈴木 県大会3回戦
- 金澤・白井 県大会4回戦
- ③ 男子個人 県大会2回戦
- 男子団体 県大会2回戦
- ④ カワサキ杯争奪全国高校選抜研修大会 ベスト16

卓球

- ① 男子団体 県大会2回戦
- 男子S 上林康一 県大会一回戦
- 女子S 山田瑞奈 県大会2回戦
- 女子D 山田・遠藤 県大会一回戦
- ② 女子D 山田・遠藤 県大会2回戦
- 女子S 遠藤あゆみ 県大会2回戦
- 女子D 山田・遠藤 県大会一回戦
- バドミントン
- ① 男子団体 県大会 ベスト16
- 男子D 森・鈴木 県大会出場
- 今野・小西 県大会 ベスト8
- 鈴木和馬 県大会 ベスト8
- 森大樹 県大会出場
- ② 男子団体 県大会 ベスト16
- 男子D 森・鈴木 県大会 ベスト16
- 男子S 森大樹 鈴木和馬 県大会出場
- アーチエリ
- ① 男子個人 6位
- ② 男子個人 宮城宏太 6位
- ③ 男子個人 7位
- ④ 関東高等学校アーチエリ選抜大会 千葉県予選会 志水滝輝 9位

フンドーフォーゲル

- ① 23年度新人大会出場
- 23年度関東大会出場
- ③ 男子個人 5位 (関東大会出場)
- ④ JOCジュニアオリンピックカップ大会 女子ユースAの部 12位
- ダンス同好会
- 予選会・新人歓迎会・たちはな祭にて発表

文化系部活動

- 合唱
- 関東合唱コンクール 銀賞
- 千葉県アンサンブルコンテスト 金賞 (県代表)
- 全国音楽アンサンブルコンテスト 優良賞
- 関東音楽アンサンブルコンテスト 金賞
- 第33回定期演奏会
- 千葉県合唱コンクール 金賞 (県代表)
- オーケストラ
- 第36回定期演奏会
- 全国高等学校選抜オーケストラフェスタ
- 全国学校音楽コンクール千葉県大会 銀賞
- 船橋地区音楽会 連合音楽会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- 将棋
- 県総合文化祭将棋大会 団体戦 3位
- 風賀皓太郎・吉種平・高澤一朗太

美術

- 県総合文化祭美術工芸作品展出品
- 谷野孝太 全国大会千葉県代表決定
- 船橋地区高校美術工芸作品展
- 全国総合文化祭富山大会 谷野孝太他5名
- 陶芸
- 船橋地区高校美術工芸作品展
- 書道
- 第61回千葉県小中高書道大会
- 第32回全国高等学校クイズ選手権全国大会
- 千葉日報社 池田彩夏 船見まどか 齋藤茜
- 第54回 全国書道展出品
- 県総合文化祭書道作品展出品
- 生物
- お茶の水女子大学海洋生物教育センター主催 「高校生のための海辺の生物体験」 参加
- 合唱 (勝浦)
- 地学
- 夏祭会合唱 (長野県東御市)
- 華道
- 卒業式入学式の花活け たちはな祭にて展示
- 茶道
- 地区茶会参加 たちはな祭にて茶会
- JRC
- 校内献血実施補助
- たちはな祭にて日本盲導犬協会のための募金
- 演劇
- 春季地区発表会 最優秀賞 主演男優賞
- 主演女優賞 ナイスキヤラ賞
- 岩井晋一郎 作品「わたしたちの銀河鉄道」を長野県上田栄谷丘高校演劇部が秋季地区大会で上演

鑑造研究

- たちはな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
- 佐倉章ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
- クイズ研究会
- 第32回全国高等学校クイズ選手権全国大会
- 準備優勝 松田健児・宮本祐輝・高島沙
- ジャズバンド
- 東船橋駅30周年記念式典にて演奏
- たちはな祭・合唱祭にて発表 定期演奏会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- クラシックギター
- たちはな祭にて発表
- 映画鑑賞
- たちはな祭にて冊子配布

放送委員会

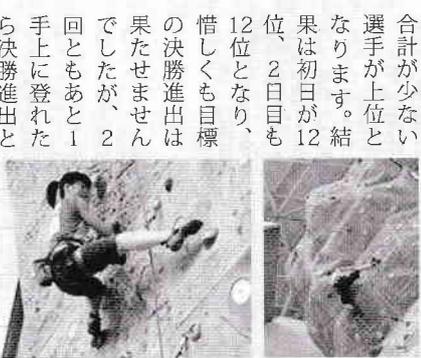
- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アフタースクール・ラジオドキュメント部門 全国大会出場
- 全国総合文化祭 AP部門 文化連盟賞

【定時制】

- 千葉県高等学校総合文化祭・第44回合同写真展 入選 友利龍 目崎宏伸 北口マイラール
- 大鐘陸 段ノ上鉄平

ワンダーフォーゲル部 村茉莉子さん JOCジュニアオリンピック大会報告

全国一クライミングが盛んな千葉県の厳しい予選を本校1年B組の村茉莉子さんが見事4位で突破し、富山県南砺市で開催された日本オリピック委員会主催の全国大会である第15回JOCジュニアオリンピック大会に出場しました。村さんは、小学生からクライミングを始め、中学3年の時には千葉県代表となつてこの大会に出場し、昨年は全国18位の成績を取っています。今回は、悲願である上位8位までが進める決勝のファイナリストに残ることを目標にして練習に取り組んできました。予選は、高さ15m(船高の屋上の高さに相当)の2種類のルートをよじ登って、それぞれの個人順位の



日本写真連盟高校生写真講座 グラブリ 段ノ上鉄平

合計が少ない選手が上位となります。結果は初日が12位、2日目も12位となり、惜しくも目標の決勝進出は果たせませんでした。ですが、2回ともあと1手上に登れたら決勝進出という際どい戦いでした。まだ1年生ですから、今後の活躍が楽しみです。応援ありがとうございます。(ワンダーフォーゲル部顧問 高山記)

鑑造研究

- たちはな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
- 佐倉章ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
- クイズ研究会
- 第32回全国高等学校クイズ選手権全国大会
- 準備優勝 松田健児・宮本祐輝・高島沙
- ジャズバンド
- 東船橋駅30周年記念式典にて演奏
- たちはな祭・合唱祭にて発表 定期演奏会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- クラシックギター
- たちはな祭にて発表
- 映画鑑賞
- たちはな祭にて冊子配布

放送委員会

- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アフタースクール・ラジオドキュメント部門 全国大会出場
- 全国総合文化祭 AP部門 文化連盟賞

【定時制】

- 千葉県高等学校総合文化祭・第44回合同写真展 入選 友利龍 目崎宏伸 北口マイラール
- 大鐘陸 段ノ上鉄平

鑑造研究

- たちはな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
- 佐倉章ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
- クイズ研究会
- 第32回全国高等学校クイズ選手権全国大会
- 準備優勝 松田健児・宮本祐輝・高島沙
- ジャズバンド
- 東船橋駅30周年記念式典にて演奏
- たちはな祭・合唱祭にて発表 定期演奏会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- クラシックギター
- たちはな祭にて発表
- 映画鑑賞
- たちはな祭にて冊子配布

放送委員会

- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アフタースクール・ラジオドキュメント部門 全国大会出場
- 全国総合文化祭 AP部門 文化連盟賞

【定時制】

- 千葉県高等学校総合文化祭・第44回合同写真展 入選 友利龍 目崎宏伸 北口マイラール
- 大鐘陸 段ノ上鉄平

全日本写真連盟高校生写真講座 グラブリ 段ノ上鉄平

鑑造研究

- たちはな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
- 佐倉章ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
- クイズ研究会
- 第32回全国高等学校クイズ選手権全国大会
- 準備優勝 松田健児・宮本祐輝・高島沙
- ジャズバンド
- 東船橋駅30周年記念式典にて演奏
- たちはな祭・合唱祭にて発表 定期演奏会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- クラシックギター
- たちはな祭にて発表
- 映画鑑賞
- たちはな祭にて冊子配布

放送委員会

- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アフタースクール・ラジオドキュメント部門 全国大会出場
- 全国総合文化祭 AP部門 文化連盟賞

【定時制】

- 千葉県高等学校総合文化祭・第44回合同写真展 入選 友利龍 目崎宏伸 北口マイラール
- 大鐘陸 段ノ上鉄平

鑑造研究

- たちはな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
- 佐倉章ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
- クイズ研究会
- 第32回全国高等学校クイズ選手権全国大会
- 準備優勝 松田健児・宮本祐輝・高島沙
- ジャズバンド
- 東船橋駅30周年記念式典にて演奏
- たちはな祭・合唱祭にて発表 定期演奏会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- クラシックギター
- たちはな祭にて発表
- 映画鑑賞
- たちはな祭にて冊子配布

放送委員会

- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アフタースクール・ラジオドキュメント部門 全国大会出場
- 全国総合文化祭 AP部門 文化連盟賞

【定時制】

- 千葉県高等学校総合文化祭・第44回合同写真展 入選 友利龍 目崎宏伸 北口マイラール
- 大鐘陸 段ノ上鉄平

全日本写真連盟高校生写真講座 グラブリ 段ノ上鉄平

鑑造研究

- たちはな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
- 佐倉章ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
- クイズ研究会
- 第32回全国高等学校クイズ選手権全国大会
- 準備優勝 松田健児・宮本祐輝・高島沙
- ジャズバンド
- 東船橋駅30周年記念式典にて演奏
- たちはな祭・合唱祭にて発表 定期演奏会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- クラシックギター
- たちはな祭にて発表
- 映画鑑賞
- たちはな祭にて冊子配布

放送委員会

- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アフタースクール・ラジオドキュメント部門 全国大会出場
- 全国総合文化祭 AP部門 文化連盟賞

【定時制】

- 千葉県高等学校総合文化祭・第44回合同写真展 入選 友利龍 目崎宏伸 北口マイラール
- 大鐘陸 段ノ上鉄平

鑑造研究

- たちはな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
- 佐倉章ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
- クイズ研究会
- 第32回全国高等学校クイズ選手権全国大会
- 準備優勝 松田健児・宮本祐輝・高島沙
- ジャズバンド
- 東船橋駅30周年記念式典にて演奏
- たちはな祭・合唱祭にて発表 定期演奏会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- クラシックギター
- たちはな祭にて発表
- 映画鑑賞
- たちはな祭にて冊子配布

放送委員会

- NHK杯全国高校放送コンテスト
- アフタースクール・ラジオドキュメント部門 全国大会出場
- 全国総合文化祭 AP部門 文化連盟賞

【定時制】

- 千葉県高等学校総合文化祭・第44回合同写真展 入選 友利龍 目崎宏伸 北口マイラール
- 大鐘陸 段ノ上鉄平

おたより彼れ是れ

●島崎 喜一(昭和48年卒)

10月10日に第3回の48年卒会を開催... 澤井先生、細井先生、佐藤先生、大木先生、12名が集まりました。

●小林 洋子(旧姓露崎)(昭和46年卒)

創立90周年の記事を読み創刊50周年に在籍していた頃が懐かしく思い出されました。

●渋谷 晴司(昭和37年卒)

昨年5月に退職しました。1943年昭和18年生まれ、昭和43年入社で勤続43年の誕生日と43に当たっていました。

●奥村 正明(昭和33年卒)

船橋に生まれ育ち、未だ船橋に住んでます。健康に恵まれ、趣味に人生を楽しくしています。

●榎本 紀子(昭和34年卒)

同窓会会長はじめ事務局の方々にはいつも感謝申し上げます。70才を過ぎると主人をはじめ親類縁者を見送ることが多く又自分自身の健康を気にかうことの毎日で、どうも皆々も健康第2で!!

●矢沢 貞子(昭和30年卒)

後期高齢者になっても、仕事をしている事に幸せを感じています。体の方は元気、年何回かの旅行を楽しんでいます。

●遠藤 一五及娘(旧姓中修)(昭和62年卒)

高3の娘が4月に大学生となる1年前に、私が女大生になりました。周産期医療に関わっていきたくて考えています。

●石井 一子(昭和28年卒)

昨年90周年式典に参加できたこと大変うれしく思っています。また全員で敬歌をうたい青春時代を謳歌することができ感謝いたしました。

●小井土 清(昭和25年卒)

学生時代を懐かしと思、戦前戦後世話に合った斎藤・榎野先生たち、そして戦後の山口校長時代、一にスポーツ、二にスポーツと教え込まれ、3年後には甲子園へと、田口先生を野球部監督に迎えた事、その功あつてか28年卒

●奥澤 清美(旧姓佐藤)(昭和29年卒)

校歌を作った時、新聞の委員会にてサトウハチロー、山田新彦先生にインタビューし、サインを頂戴しました。残つては是非寄附したいので残る限り、山田先生は自分の顔をかいて下さった。

●奥永 俊哉(昭和58年卒)

同窓会の中で意外と知る機会が少ないのが出身高校です。先日会社の同僚の話を聞いて、2人とも船橋出身であることが判り、1980年代前半の話で盛り上がっています。

●井上 肇(昭和57年卒)

同窓会の案内で卒業してから30周年ということを知り、初めて出席することになりました。懐かしいクラス仲間や所属していた柔道部の友人達と出会うことを楽しみにしています。

●佐藤 嘉男(昭和20年卒)

当年83歳、健康を恵まれ、週2回、1回2時間程、硬式テニスをして、スポーツを楽しんでいます。生涯スポーツを目標に介護の無い余後の人生を過ごしております。

●井下 勝代(旧姓矢部)(昭和35年卒)

同窓会だより、毎回ありがとうございます。幹事さまの支えがあったことが、船橋高校の歴史が現在につながつてると感謝いたします。

●片桐 順子(旧姓飯田)(昭和37年卒)

たまたま同窓会だより(23号)にのつた「私をなつて下さった行く先不明の、素敵な3年後輩の平井由喜子さん」と「船橋でお会いしよう」と、電話でお話することができました。

●高橋 史枝(旧姓山本)(昭和36年卒)

2011年11月20日、卒業後50周年、恩師豊田先生の13回忌の年に船橋玉川旅館でD組のクラス会を行いました。出席者20名、まだ現役で働いている人もいました。

●今泉 幸久(昭和47年卒)

顧問だった美術の芝原一先生と体育の青木郁夫先生に毎回「出陣したとき、体操部OB・OG会を毎年開催してほしい」と思っています。

●小阪 久子(旧姓大沢)(昭和50年卒)

事務局長の職、御苦勞様です。同窓会にはなかなか参加できず残念ですが、会報をいつも楽しみに拝見しています。

●谷嶋 俊雄(昭和24年卒)

昭和24年併設中ま35年間の世話になり、27年卒の方達と同期です。また戦後の混乱期に近く東京へ転校、その後千葉大医学部を34年卒業、現在千葉市内で内科開業、傍ら山王看護専門学校長として看護師教育に励んでいます。

●大串 清(旧職員)

昭和33年4月から平成4年3月までと、平成13年4月から平成16年3月まで合計17年間お世話になりました。船高の教師生活に正しく青春時代でした。

●古清水 厚(昭和54年卒)

事務局長様、大変ありがとうございます。会報はいつも楽しみに読んでいます。

●齋城 和典(昭和41年卒)

40年振りに船橋に戻りました。一万歩目標のウォーキングで今まで知らなかった船橋を新発見。

●深沢 吉栄(昭和20年卒)

67年前の思い出、国の学徒動員令により、3、4、5年生は、昭和19、18、17、船橋市内(海神町、千葉工所に動員され勤務、陸軍の海上特攻艦(船橋製米米位)製造(木製)船名は通称丸二と丸八とも云われていた様(製造の船は青い船名を付けたのを思い出しました)銚子市の海軍海士特攻艦は知られていないのが残念。

●石田 實(旧職員)

昭和43、52年在職、その後県立高4校勤務、平成4年3月船橋高校(校長)定年退職。退職後から始めた詩、民謡、木彫受皿10数年発表会や出品に精を出す。本年4月マスターズ陸上競技に8年ぶりに復帰し、7月の県選手権大会では60m、100m、三段跳の3種目金メダル。陸上競技選手生活は現役マスターズで31年、来年は自筆を自薦。

●野口 紀雄(昭和26年卒)

昨秋、卒後60周年記念の同窓会を開催しました。併せて、恩師田中義男先生の米寿のお祝いと少々早いが私達の長寿の喜賀をも兼ねて24名が集まりました。歳を忘れ喜び野郎でこの集まりがいつまで続けられるか挑戦してみようという10月10日、11日と決まりました。母校は創立91周年になりました。校名を見聞する機会が増えたりに思えます。

●飯田 郁夫(昭和29年卒)

元気で、12月9日から15日迄清瀬で個展(水彩画)を開きます。月に1回「デザインサービス」ハートでコースの伴奏をしています。

●近藤 久夫(昭和29年卒)

今年卒業を迎えます。級友の数が減っていくのは嬉しい限りですが、健在者が頑張つてクラス会が続いています。今年、はさしつめ「祝」の会とさせていただきます。

●一谷 恵子(昭和49年卒)

現役船高生の中からは物ずりシンピツク金メダルが出たり、同窓会から総務大臣が登場したり、様々な分野で同窓会が活躍していることを誇らしく思っております。また、自身に励みにもなります。

●斎藤 秀仁(昭和43年卒)

昭和43年卒業G組の同窓会をひ表現してもらいたいので、首相が誕生は船高OBとして誇りに思っています。首相が誕生は船高OBとして誇りに思っています。

●富田 祐志(昭和36年卒)

野球部の応援に行っています。強くなって来ましたが、甲子園に行けるのを楽しみにしています。文化祭クラブが活躍しています。合唱部、合奏、書道、生物、アナウンス、陸上、剣道個人、写真部等々、野田総務は柔道部OBで活動しています。

●岡崎 利英(昭和32年卒)

船高のますますの発展を祈念しています。当校から首相が生まれたことを素直に誇りに思うと共に喜んでいます。

●内場 春子(旧姓木内)(昭和33年卒)

野田総務は後輩の活躍を嬉しく思っています。同窓会だより編集の皆様いつもご苦労さまです。次回も楽しみにしています。

●高尾 善夫(昭和27年卒)

野田 君へ、大義を待たせられたの信する道を進め!と伝えています。

●古市 正夫(旧職員)

1月3日の昭和51年1月卒の同窓会で野田総務とお会いでき、教師賃をいただきました。同窓会のままです。発展を祈念しています。

●田所 真紀子(旧姓神谷)(昭和58年卒)

90周年の記念式典には入学したばかりの次男が出席し、千石先生のお話面白かったです。ありがとうございました。入学手続きの際には事務室前にサトウハチローさんの手紙が飾られているのを見ました。温かみのある直筆を拝見でき、感謝深かったです。

●中島 雅子(旧姓辻)(昭和36年卒)

残念ながら90周年式典に参加出来ませんでした。千石先生の講演興味深く楽しませて頂きました。船高の発展をお祈り致します。

●沼田 佐智子(旧姓田原)(昭和34年卒)

同窓会だより24頁までびびりっ!!エツ千石先生について船高、知らなかつた。あらゆる動物好き。私は10数年来、ペット専門大に勤務し、唯、吾輩だった爬虫類もテレビでみる千石先生の爬虫類を愛する姿に影響を受けてカゲもまわる様になりました。それ以来千石正一さんの大ファンです。お話を聞きました。

●秀平 まさ子(旧姓妹尾)(昭和43年卒)

現在の船高の躍進や卒業生の活躍を耳にして、自かを卒業生の一員として大変嬉しく誇らしく思います。同級生の千石さんの講演記事は興味深く読ませて頂きました。

理事に登録を

昭和56年度以降の学年理事選出にご協力ください。今年度新たに昭和62年卒の理事が登録されました。他学年の方からご連絡をお待ちしています。funafuna55@nifty.com

編集後記

船橋高校も去年90周年を迎えました。自分も教員になって約30年経ちますが、去年縁があつて船橋高校に転勤してきまして。どの先生方もそうでしょうが、自分もよもや教員として母校である船橋高校で教鞭をとることになるとは想像すらしていませんでした。

去年久しぶりに校舎に入ったとき、自分が高校生の時とまったく変わらない校舎だということに懐かしさを感じた反面、ということ卒業してからはほとんど改築もされていないのだと、少し愕然としました。もちろん教室内にはエアコンが入っていたり、補強工事はなされていたりして、まったく以前と同じということではないものの、教室の床のきしみや壁のしみなどが残っていて、教員ながら高校時代のことを懐かしく思い出しています。

ここで自分が在籍していた当時の船高について少しお話ししたいと思います。現在と違い普通科はH組まで、理数科はI組でした。3年から文理に分かれますが、理系は今と違ってA組からC組、文系がD組からH組まででした。文化祭は今のグラウンドにぎやかでしたが、体育祭は上でのグラウンドで運動会らしきものをやっていた記憶があります。

勤務し始めてから約1年半、去年は大地震の余波で落ち着かない日々に、毎日生徒の時とは違う発見をしています。これから先ははやく母校で教鞭をとることになると思っています。よろしくお願ひします。(M・I)